



<1>「DV 虐待について思われること」自由回答欄に書かれていた人数

- 1. 児童の保護者（児童クラブ、子ども会） 285 人中
115 人が記述。 (40.4%)
- 2. 児童クラブの指導員 アンケート回答者 30 人中
11 人が記述。 (36.7%)
- 3. 民生児童委員 アンケート回答者 187 人中
57 人が記述。 (30.5%)

アンケート結果を受けて

アンケート配布時に、津山市内児童クラブのすべてに協力要請を行いました。残念ながら約 4 割が非協力でした。非協力の理由には、「行政からのアンケートしか答えない」がほとんどで 1 児童クラブからは「保護者が不愉快になり負担になる」という意見がありました。子どもや家庭の困りごとに支援をするためのアンケートだと説明を行いました。理解していただけないケースもありました。団体としてもこの結果を真摯に受け止め、連絡方法や協力要請の手段の改善を行っていききたいと思います。

また、行政機関との認識が不十分な部分もあり、その件に関しては行政との話し合いの場も設けていただき、お互いの認識を擦り合わせる事ができました。包括的な支援体制の構築に向けて、引き続き必要に応じて行政機関との連携を行い、丁寧な活動を行ってまいります。

民生児童委員に対してすべての地域に配布しましたが、4 割ほど回答がありませんでした。この結果を民生児童委員にお伝えし、地域のボランティアの代表である立場として結果を重く受け止めていただきました。DV 虐待について関心をもって活動をしていただくようお願いする機会として、民生児童委員の研修に参加し、登壇の機会をいただきました。

保護者の回答率が最も高く、子育て中の保護者（特に回答者は母親が多かった）DV 虐待についての関心や意見や悩みについて丁寧に書かれていたことが印象的でした。



<2>「DV 虐待について思われること」自由回答欄に書かれていた内容のカテゴリー別集計と回答例

（1つの内容だけではない場合があるため回答人数との誤差があります）

- 1. 児童の保護者（115人）**
- ①DV 虐待被害加害の実態把握回答（精神的） 47人
 - ②DV 虐待被害加害の実態把握回答（身体的） 20人
 - ③DV 虐待について無知または無関心な内容を書いた回答 6人
 - ・「虐待としつけの違いがわかりません」「怒鳴ると虐待ですか？親も人間だからイライラします。仕方ない」「我が家ではないからわかりません」
 - ④DV 虐待についての個人的感想を書いた回答 54人
- 2. 児童クラブの指導員（11人）**
- ⑤DV 虐待被害加害の実態把握回答（精神的） 6人
 - ⑥DV 虐待被害加害の実態把握回答（身体的） 4人
 - ⑦DV 虐待について無知または無関心な内容を書いた回答 0人
 - ⑧DV 虐待についての個人的感想を書いた回答 4人

3. 民生児童委員（57人）

- ⑨DV 虐待被害加害の実態把握回答（精神的） 5人
- ⑩DV 虐待被害加害の実態把握回答（身体的） 9人
- ⑪DV 虐待について無知または無関心な内容を書いた回答 41人
- ・「私は（DV 虐待を）目にする事もないのでよくわかりません」「以前は夫の力が強かったが、近年男性も DV に理解を示すようになったと思う」「実態がわからない、アンケートの意味がわからない」「わからないから答えられない」「DV 虐待などほとんどないと思う。しつけでは？」
- ⑫DV 虐待についての個人的感想を書いた回答 10人

アンケート結果を受けて

児童の保護者は DV 虐待の実態を把握されている方や家庭内や学校で起こっている事実についても詳細に記述してくださいました。身体的な DV には精神的な DV も伴っていることを理解されている方がほとんどでした。また夫婦仲の問題が子どもに影響していることについて、アンケートを通して改めて理解され、認識を改めたとの内容も見受けら団体としてもアンケート実施の手ごたえを感じています。このアンケートに丁寧に回答していただいているという印象でした。コロナ禍での子育ての変化により、家庭内でもストレスが増し、新たな問題が浮かび上がったように思います。アンケートには支援を求める声も多くありました。

民生児童委員は、DV 虐待の認知をされていない方が多く見られました。DV や虐待そのものの意味の理解もされていない場合もあり、無関心な回答が多かったため、今後被害者の声を届ける等の仕組み作りの必要性を感じています。

<3> DV 虐待のことへの自由回答欄に書かれていた要望内容例

1. 児童の保護者

- ・DV 虐待を発見する仕組みを作ってほしい。
- ・行政や警察ではなく、もっと気軽に相談できる場所が必要。
- ・育児中に親がゆっくりできる居場所が欲しい。

2. 児童クラブの指導員

- ・専門機関・専門団体の支援に期待する！指導員や先生では解決できない
- ・実態を把握していても本人や家族になかなか言えないし通報もしにくいので中間的な機関に支援して欲しい

3. 民生児童委員

- ・DV 虐待について理解を深めたい。セミナーなどを受けてたい。

（まとめと課題）

アンケートの結果により、DV 虐待の環境下の子どもたちにおいて、家庭内の問題にとどまらず、子どもたちの学習や人間関係全般にも影響していることがわかりました。子どもの学習の支援や気軽に相談できる場所、子育て中の親がゆっくりできる居場所などの必要性も見えてきました。

子どもを取り巻く大人の DV や虐待に対する意識として、保護者自身が最も関心があることがわかりました。保護者が相談しやすい環境づくりや、子どもたちが関わる家庭内や学校以外でも気軽に相談できる場所があれば普段は言いにくいことも話せるのではないかと推測します。

課題

- ・DV 虐待の具体的な知識を学ぶための認知活動
- ・DV 虐待の実態把握のための連携共有。さらに詳しく実態調査
- ・学習支援体制の構築
- ・気軽に相談できる中間支援団体としての役割の整理と認知活動
- ・学校との連携

これらの課題のためには、行政機関と地域のボランティアや NPO 法人が連携して、それぞれの得意なことで支援する必要があります。特に、地域のことを知る民生児童委員の協力が欠かせません。連携や共有についてはこれから協議を重ねながら進めていきたいと思っています。